



メールマガジン「ユニバーサルひょうご通信」第127号  
発行：兵庫県ユニバーサル推進課 令和3年3月10日



「暖かくなったかな」と思ったら、また寒くなったりと、気温変化が大きいので、皆さま、体調には気を付けて下さいね。  
今朝、自転車で公園の横を通るとき、桜の花が咲きかけていることに気づきました。もうすぐ卒業・入学の季節ですね。今年の桜は早く咲くそうですよ。  
皆さまにとって、素敵な春になりますように。

それでは、ユニバーサルひょうご通信3月号をどうぞ。



【今月のピックアップ！】

①もっと知りたい～盲導犬～

【手話カフェ】

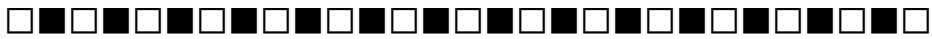
②～聞こえないってどんなこと？続編～

【イベント・募集】

③「兵庫県障害者アートギャラリー」3月の催し

【ラジオ】

④ラジオ「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」2月放送



---

① もっと知りたい～盲導犬～

---

今月は、社会福祉法人兵庫盲導犬協会に、盲導犬育成、お店での受け入れ拒否事案、そして出前講座の募集などについて伺いました。

社会福祉法人兵庫盲導犬協会は神戸市西区押部谷の自然豊かな場所、盲導犬の育成、訓練、視覚障害者への無償貸与、啓発等に取り組みられています。

盲導犬の育成と言うと、訓練や日々のお世話を想像しがちですが、繁殖から引退までの長期に渡る育成をされています。(引退した犬は、同協会に登録しているリタイア犬引き取りボランティアのもとで過ごしています)

育成しているすべての犬たちが盲導犬になれるわけではなく、性格や体質などが向いている犬だけが、盲導犬になります。盲導犬にならない理由は多岐にわたりますが、盲導犬として歩くことがストレスに感じてしまう子、たくさん動き回りたい子など、は盲導犬にはならずキャリアチェンジ犬として一般のご家庭に引き取ってもらうか、PR 犬として協会の啓発活動へ参加するなど、それぞれの進路へ進んでいきます。盲導犬に向いていると判断された犬は、盲導犬と歩きたいと考えている視覚障害者の方とのマッチングを実施し、相性を確かめてから盲導犬として社会へ参加します。

デビューした後は、盲導犬ユーザーと共にいろんな場所へ歩いていくのですが、楽しいことばかりではありません。盲導犬ユーザーのなんと 52%が外出先での受け入れ拒否に遭っています。お店の方に「犬はダメ」「他のお客さんに迷惑」「前例がない」といった理由で断られているケースが多くあります。

「盲導犬は普通の犬ではなく補助犬であるということ、毎日のお手入れや衛生管理を行っていること等をお店側の方にも知ってもらい、相互理解を図っていきたい。」と、同協会の濱名さんは話します。

相互理解を図るため、普段はイベント・募金活動などのパネル展示や声掛けなどで啓発活動をされています。しかし、同協会も、新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受け、活動を自粛せざるを得ない状況に…。コロナに負けないよう、Instagram や Facebook など

の SNS を活用し、日々の報告や盲導犬情報をお知らせしています。  
ぜひご覧ください。

■～兵庫盲導犬協会から～■

当協会では学校や企業様への講演活動を実施しています！  
各学校や会社、飲食店などを対象に、ご要望に応じて実施して  
います。場所の規模によって人数も相談可能です！  
盲導犬って実際にどんなことをしているの？どんな訓練をしてい  
るの？など、盲導犬についての知識を PR 犬と共に伺いし、お伝え  
しています！皆様の団体でも、盲導犬についての講座を開いてみま  
せんか？ぜひ、気兼ねなくお問い合わせください！

これからも、盲導犬事業をあたたく見守っていただければ幸いです。  
何卒、よろしくお願いいたします。

【連絡先】 社会福祉法人兵庫盲導犬協会

ホームページ <https://www.moudouken.org/>

電話 078-995-3481

FAX 078-995-3483

---

② 【手話カフェ】 ～ 聞こえないってどんなこと？続編 ～

---

県の手話通訳事務員が、聴覚をめぐるちょっとしたお話をお伝え  
するコーナーの第 2 回です。

先月号、第 1 回では、聴覚には自分の命を守るという重要な役割  
があることをお話ししました。

もう一つの大切な役割は「コミュニケーション」です。私たちは、生  
活するとき、言語を使って考えたり、気持ちや意見を伝え合ったりし  
ています。

この言語はどうやって身に着けたでしょう？小さいころから辞書  
を調べて・・・ということはないですね。耳が聞こえる人は、その「聞こ

える」という感覚を使って、周りの人の会話や声かけから自然に単語や文法を身に着けていきます。そのような言語を母語(ぼご)といいます。

私たちは母語を使いこなし、読むこと、聞くことを通して知識を深めたり、会話を楽しんだり、さらに母語を通してほかの言語を身に着けたりします。

ですから、耳が聞こえない・聞こえにくい場合は、まず聞いて言語を身に着けることが難しいということになります。特に、先天的に聴覚に障害があると言語習得はかなりの努力を要します。そして、努力して身に着ける言語は母語になりにくいのです。

さらに、聞き取りにくい状態で相手の話を理解することは、とても困難です。

今、私たちは暮らしの中で「耳は聞こえて当たり前」「日本語はみんな知っているもの」と無意識に思っていないですか。そのことで、耳が聞こえない・聞こえにくい人達にとって暮らしにくい社会になっているのではないのでしょうか。

昨年の春から、新型コロナウイルス感染症でみんなが急にマスクをし始め、口の形も表情も見にくくなりました。マスクやパーティーションのために声もより聞き取りにくくなり、耳が聞こえない・聞こえにくい人にとってコミュニケーションしにくい状況が続いています。

私たちが目指しているユニバーサル社会になっているか、いつも感覚を研ぎ澄まして見つめていきましょう。

---

### ③「兵庫県障害者アートギャラリー」3月の催し

---

神戸市灘区の県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」内にある「兵庫県障害者アートギャラリー」では、「片山工房の『小さな』作品展 in 原田の森ギャラリー」を開催しています。

障害のある方々が、様々な表現手段を使い、自由な発想で創作された豊かな創造の世界をどうぞご鑑賞ください。

■「片山工房の『小さな』作品展 in 原田の森ギャラリー」  
好評開催中(～3/31)

<https://hyogo-arts.or.jp/harada/exhibitionmonth/202102>

---

#### ④ラジオ「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」2月放送

---

月 1 回ラジオ関西で放送中の「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」。2月15日放送のゲストは、社会福祉法人兵庫県視覚障害者福祉協会の大谷武会長。「視覚障害者の情報取得:点字図書館とオーディオブック」をテーマにお話いただきました。

オーディオブックとは、「耳で聞く本」の一種で、パソコンやスマートフォンで聞くことができます。

専門学校や大学に進学する視覚障害者は増えてきていますが、専門書のオーディオブック化はあまり進んでいません。

そこで、県では関西学院大学や神戸大学とも連携を取りながら、「専門書のオーディオブック化」に力を入れています。

大谷会長は、「日々進化する ICT 技術を活用しながらも、やはり周囲の方の温かい声かけや支えがあってこそ、視覚障害者は社会参加しやすくなる」と話しました。

詳しい放送内容は、ラジオ関西「ラジトピ」をご覧ください。

<https://jocr.jp/raditopi/2021/02/24/248520/>

#### ■次回のラジオ「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」

3月 15 日(月)15 時 20 分～15 時 40 分

(ラジオ関西「PUSH！」内)

ゲストは日本パーソナルセンター株式会社の大本正巳常務取締役(予定)で、障害者の就労をテーマにお話いただきます。

---

**【編集・発行】**

イベント情報や、メルマガの配信希望・中止等のご連絡は以下まで

兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

TEL:078(362)4379 FAX:078(362)9040

Mail:[universal@pref.hyogo.lg.jp](mailto:universal@pref.hyogo.lg.jp)

---